



いばらき未来基金

いばらき未来基金第1回テーマ助成事業

報告書

2015年7月

いばらき未来基金運営委員会





いばらき未来基金

第1回テーマ助成 募集要項

いばらき未来基金とは

いばらき未来基金は、認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・commonsによる茨城初の市民による市民団体のための助成事業です。「市民が課題解決の主体になること」と「多様な団体の連携による課題解決」をテーマに、15 年間様々な市民活動を支援してきたcommonsの経験を活かしながら、当基金は「いばらきの未来づくりにつながる活動」を応援することを目的に、2012 年 10 月に設立されました。

当基金の趣旨

東日本大震災は、私たちの生活や産業に大きな影響を及ぼしました。多くの隣人が津波や液状化で住いを失い、環境汚染や風評被害そして原発事故が続いている中で、特に福島から避難されている約 4,000 人の方々は、先が見えない状況におかれています。震災によって、これまでは当たり前だった安全な空気、土壌、食べ物、エネルギー、風景そして家族や人とのつながりが、いかに大切なものか再認識しました。

高齢化が進んだ地域では、介護や買い物、外出、孤独をどうするかが課題になっています。経済のグローバル化で外国からの定住者が増える中で、多文化共生社会をつくるには言葉の問題と子どもの教育問題が課題です。いじめや自殺、孤立死、心に関する問題が増えている背景には、セーフティ・ネットの崩壊や格差の拡大といった大きな問題もあります。

このような状況であっても、将来への希望を持ち、安心して暮らせる社会を次世代につなげていくためには、「未来を明るくする」ための行動を一人一人が起こすこと、互いに協力することが大切です。いばらき未来基金は、孤立を防ぐこと、未来の担い手と技術の育成、地域のつながりづくりの3つのテーマで、未来につながる市民活動を応援します。そして、多くの人たちと一緒に考え、その実現に向けてともに行動していきたいと思っています。

2011 年からスタートした認定 NPO 法人の税優遇制度を生かして当基金へご寄付を募り、その財源で市民団体を支援していくことによって、誰もが寄付で課題解決に参加できる仕組みと、想いがこもった温かいお金が流れる仕組み、人が支えあう茨城をつくっていきます。



テーマ助成の助成額

1団体またはプロジェクトにつき10万円～100万円としますが、できるだけ自己資金をご用意ください。自助努力や他の助成などでまかなえない部分を支援しますので、助成額が申請額を下回ることもあります。

公募テーマ

テーマ1：共に生きる未来 ～誰もが安心して暮らせる地域づくり～

震災や不況で家や仕事をなくしたり、家族が離れ離れになったり、風評被害に遭いながらも、前を向いて動こうとする人に寄り添い、応援する活動があります。日本語が話せない、子どもの世話が大変など、事情があって仕事の機会が限られる人のための支援活動があります。ひきこもりや無縁社会といった現象は、誰もが直面するかもしれない問題です。行政の支援が届かない新たな福祉問題に取り組む活動や、孤立しがちな人のコミュニティづくりなど、共に生きる社会を目指す活動をいばらき未来基金は支援します。

(例)

- 震災で苦勞した人と共に生きる活動
- 就勞しにくい人の仕事や職場づくり
- 悩んでいる人や家族を支える活動
- ひとり親世帯や単身世帯を応援する活動
- 情報・移動・制度・心のバリアを取り除く活動
- 社会課題への関心・理解を深める活動
- 課題を抱えたひとの自助グループづくり
- 排除されがちな人のセーフティ・ネットづくり



福島からの避難者へ情報誌の発送



外国人の就勞支援

テーマ2：未来世代と持続可能性 ～未来の担い手やライフスタイルづくり～

経済のグローバル化で、学校では外国とつながる子どもが増え、高校進学が課題になっています。格差が広がり、塾にいけない子どもたちも増えています。次世代を担う子どもたちが進学や将来の夢をあきらめなくてすむよう学びを支援することは、未来への投資です。また、自然エネルギーの普及や乗り物を共有する仕組みづくりなど、持続可能な生活環境をつくるための活動も地域の未来をつくることにつながります。地域の未来を明るくする人や技術が育つよう、夢や希望を本物の可能性に変える活動をいばらき未来基金は支援します。

(例)

- 子どもの貧困や、学習支援に関する活動
- 外国とつながる子どもへの支援
- 若者の進路を拓くキャリア教育
- ESD（参加型の学習とまちづくり）のプログラム
- 食の安全や農業を支える活動
- 自然エネルギーの普及
- 自然や環境を次世代に残す活動
- 地域での資源循環やエコな暮らしを広げる活動



外国人生徒の課外授業



ソーラーパネルの普及

テーマ3：地域資源の再活用 ～知恵と交流で未来をつくる～

社会の変化によって、地域にある大事な場所、風景、建物、人のつながり、文化が失われつつあります。限界集落に若者が入って村を残す活動、古い蔵や民家、廃校や公共施設などを改装して次世代に残す活動、商店街や団地の中に人が集う場や小さな福祉拠点をつくる活動など、地域の資源と課題を組み合わせる新たな価値や公共空間を生み出す活動があります。立場や地域を超えて人が交流したり、知恵を出しあって、未来につながる課題解決に取り組むプロジェクトや「地域円卓会議」¹の開催をいばらき未来基金は支援します。

(例)

- 民家や施設を開いた居場所づくり
- 団地の高齢化対策
- 地域資源を生かしたタウンミュージアム
- 地域を紹介する情報の発信
- 地域や世代を超えた交流企画
- 都市と農村の暮らしをつなげる活動
- 企業とNPO等異業種による協働実験
- つながり人材の育成に関する活動



古民家を改修した福祉施設



地域円卓会議の様子

応募資格

安心できる未来を創るために、地域課題を発掘し、解決しようと茨城県で継続的に活動する非営利の組織。法人格の有無や種類は問いません。ただし、政治・宗教を主目的とする組織は対象としません。

対象経費

申請内容に関わる必要経費（支出項目は特に定めません。運営費や人件費も含むことができます）

※ 対象となる事業の期間は、助成の覚書締結から1年間を原則としますが、プロジェクトの内容によって期間を変更することも可能です。

申請方法

第1期の申請は以下の期間に受け付けます。年2回に審査、助成を行う予定です。

回	申請受付	審査	助成決定
第1回	12月2日(月)～ 2月28日(金) ※ 当日消印有効	3月	4月

※ 申請の相談は年間通して受け付けます。

※ コモンズが主催する「フューチャーセンター・セッション」では、支援を希望する「未来に向けた企画」について関係団体とのマッチングや、企画に対するアイデア提供を行いますので、ご活用ください。

¹ 様々な分野の組織や人が主体的に集い、一つの組織だけではできない新たな協働の取り組みを具体化する会議及びそのプロセスのことです。事務局がつくった案に意見を言うだけの会議ではなく、何について議論するかについても各自が考えを出し合い、課題や何を達成するかについて共有します。そして課題解決のための具体的な方策について意見を出しあい、実際の協働に結び付けていきます。

選考方法

いばらき未来基金テーマ助成選考委員会（当基金運営委員とテーマに関する有識者により構成）によって、申請された事業について選考・決定します。選考過程で必要に応じて関連資料を提出していただいたり、ヒアリングや公開プレゼンテーションなどを行います。

また、申請された事業の趣旨は評価されたものの、計画などをさらに検討する必要性が認められた場合には、再度計画や予算の修正をお願いすることがあります。その際、必要に応じて、計画立案のためのアドバイザー派遣などを行います。

選考基準

いばらき未来基金の趣旨に合っているかどうかを基本とし、以下の視点で選考します。

- 事業がどのように地域課題解決と結びつくかが明確であること
- 他からの資金が受けにくい活動内容であること
- 助成金が有効に活用される見込みのあること
- 助成によって組織基盤や地域とのつながりが強化されること
- 目的を達成するための団体の力量が認められること

助成金の支払い・使途

- 助成決定後、覚書を交換し、所定の手続きを経て助成金を支払います。
- 申請書類の資金使途計画に従って助成金を用いていただきます
- （計画変更が必要になった場合は、変更願いを出して承認を得ていただきます）。

助成期間中・終了後の提出書類

所定の書式により、下記の報告書をご提出いただきます。

- 助成期間の中間時点と終了時点での報告書、活動計算書
- 助成事業の実施状況を示す写真、資料など

※ なお、助成期間中に現地インタビューに伺うほか、助成事業報告会にもご出席いただきます。

個人情報のお取り扱い

申請書類に記載された個人情報は、本助成事業の目的以外には利用しません。

申請申込み／お問い合わせ

まずは、事務局までご相談ください。申請概要をお伺いします。



いばらき未来基金

（事務局：認定NPO法人 茨城NPOセンター・commons）

〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目1番39号 茨城県労働福祉会館2階

☎：029-300-4321（平日：午前10時～午後6時）

FAX：029-300-4320

eメール：office@ibaraki-mirai.org

ウェブサイト：www.ibaraki-mirai.org

助成対象となった事業

団体名	代表者 役職名	代表者	事業名	助成 金額
認定 NPO 法人 いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい	理事長	坂本 博之	子どもの虐待防止	10万円
NPO 法人 キドックス	代表理事	上山 琴美	組織基盤強化事業	10万円
子育てカフェポムポム(※)	代表	落合 美智子	子育て応援ワークショップ・カフェ事業のための福島県視察事業	20万円
チームちゃんみよTV (現在はNPO法人 ちゃんみよTV)	会長 (現理事長)	綾部 みよ	インターネット放送による草の根情報発信につなげる先進事例視察事業	10万円
kosodate はぐはぐ	代表理事	田中 エリ子	ホームスタート事業	20万円

※ 追加助成の依頼があり、2014年12月に追加で10万円を助成し、合計20万円の助成を行った。

<p>事業名</p>	<p>子どもの虐待防止</p>
<p>団体名</p>	<p>認定NPO 法人 いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい</p>
<p>実施内容</p>	<p>子ども虐待防止のための講演会活動 合計3回 ①2014年9月17日(水) 10時～12時 講演会「児童養護施設から見る困難な子どもとの関わり」講師：関貴教氏 参加者：県北学童保育所指導員 20名 場所：額田小学校 学童保育所 ②2014年10月29日(水) 13時半～16時 講演会「楽しく子どもと育ていくために」講師：関貴教氏 参加者：大塚ひのまる幼稚園幼稚園教諭、事務職員、PTA 父兄 計16名 場所：ひのまる幼稚園ホール ③2015年5月24日(日) 13時半～16時 講演会「児童虐待と傷ついていく脳」講師：友田明美氏 参加者：一般(医療関係者・県職員・学生・相談員など)102名 場所：総合病院土浦協同病院 講義室</p>
<p>事業を進めるにあたって課題となった点と、その対応</p>	<p>事業を安定して運営するために必要な経費が安定して得ることが課題となっていた。そこで講演会のチラシや広報を県の協力を得て市町村に送付したり、講師一覧表を作成した。</p>
<p>申請書に記載した「目標」に対する実施「結果」</p>	<p>「子どもに優しい社会の実現」を目標に、子どもとの関わり方、大人のストレス対応法について」の講演とワークショップを実施。また大人の不適切な言動が発育途上の子どもの脳に与える影響について講演会を実施した。その結果、実感として大人の言動が子どもの成長に与える影響を知り、すぐ実践してみたいという反応が多く、子どもを肯定的にみる大人が増えるものと期待出来た。</p>
<p>申請書に記載した「目的」に対する「成果」や地域社会へのインパクト</p>	<p>講演会活動は、合計3回実施し、内2回は無償で行い、2015年5月24日の講演会は、会員外参加者に対しては有料で行ったが、100名以上の参加があり、会員外の参加者が70名で、一般市民を始め、医療関係者、福祉関係者、弁護士等、様々な職種の方が参加された。アンケートでも今後の講演会を期待する意見もあり、当法人の認知度のアップと会員増が見込まれる。また土浦協同病院から、会場・駐車場・機器等、使用の協力が得られ、協力関係の幅を広げることができた。今後もこのような企画を通して、会員増につなげていきたい。</p> <p>また、子ども虐待予防のために当事者(被虐待体験者)支援を行い、世代間連鎖の防止を目的にオレンジライン、オレンジサロンの運営をしてきたが、新規参加者が3名おり、前向きに生きる支援につながっていると考えられる。(子供会、子育て支援活動の企画に参加している)</p>

<p>事業実施後の展望や 新たに見えてきた 地域課題</p>	<p>子育て中の方や親にかわって子育ての一端を担う保育士、学童保育指導員などに講演会、ワークショップに参加してもらった感想として「子育て」に「自分を見つめる」話し合いはなかったので、大切なことだと思ったという意見が多かった。大人の言動が暴力と同様に子どもの脳を傷つけているという事実を伝えていく必要があると感じている。</p>
<p>助成金の原資を寄付 された市民へ一言</p>	<p>助成金を頂いた事業が実施できたこと、大変ありがたく感謝しております。子どもの虐待防止というと特別な家庭のことに思いますが、どこの家庭においても、起こりえます。家庭が子どもにとって安心して安全であることは大人にとっても暮らしやすい社会になるということだと思います。今後とも子どもの未来のために、ご協力よろしく申し上げます。</p>

助成事業に関する収支報告書

1. 収入内訳

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
いばらき未来基金助成金 (千円未満切捨)	100,000	
自己資金	13,930	
その他(参加費)	70,000	5/24分 1,000×70名
収 入 総 額	183,930	

2. 支出内訳

(1) 事業実施の場合

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
内 訳		
講師謝金		
2014/9/17. 10/29	50,000	25,000円×2回分(関氏)
2015/5/24	30,000	(友田氏)
交通費		
2014/9/17	3,460	
2014/10/29	4,380	
2015/5/24	16,090	
印刷費(資料・チラシ)	30,000	
通信費	30,000	
消耗品(事務用品など)	20,000	
助成事業総額	183,930	

子ども虐待防止講演会

「児童養護施設から見る困難な子どもとの関わり」

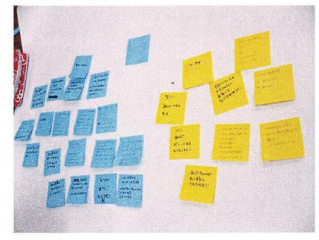
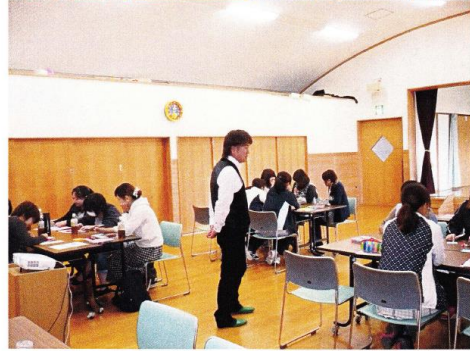
2014年9月17日(水) 10時~12時



子ども虐待防止講演会

「楽しく子どもと育っていくために」

2014年10月29日(水) 13時半~16時



子ども虐待防止講演会

「児童虐待と傷ついていく脳」

2015年5月24日（日） 13時半～16時



<p>事業名</p>	<p>「保護犬を介した若者の自立支援プログラム」における組織基盤の強化</p>
<p>団体名</p>	<p>NPO 法人 キドックス</p>
<p>実施内容</p>	<p>申請書では、引きこもりの若者のためのフリースペース立ち上げプロジェクトとして申請させていただきましたが、その後茨城 NPO センター・コモンズ様と相談させていただき、メイン事業である「保護犬を介した若者の自立支援プログラム」における組織基盤の強化のために助成金を活用させていただきました。</p> <p>具体的な実施内容は、組織基盤強化のための人材育成に使わせていただきました。これまでプログラムの運営の中核を担っていたのは理事長のみで、理事長が不在だとプログラムが運営できなくなってしまうという大変不安定な運営状態で、もう1人現場の統括者が必要な状況でした。</p> <p>そこで、助成金を活用して2015年4月から雇用予定のスタッフに対して2014年7月～9月頃に集中的にプログラム実施のための研修を行いました。そのおかげで、その後は現場の統括を、理事長以外にもう一人も出来るようになり、また、2015年4月からはスムーズにプログラム運営を研修を受けたスタッフへ引き継ぐことができました。</p>
<p>事業を進めるにあたって課題となった点と、その対応</p>	<p>今統括者となっているスタッフへの研修プログラム自体も理事長が作りながらの研修となり、プログラム運営を継続しながらのスタッフ育成ということで元々理事長が担っていた他の必要な裏方業務が滞ってしまいました。対応としては引き継いだところから様子を見つつもどんどん任せるようにし、サポートする部分と任せる部分を分け、徐々に任せる部分を大きくして移行していきました。</p>
<p>申請書に記載した「目標」に対する実施「結果」</p>	<p>2015年4月から、上記の研修を受けて統括者へと育ったスタッフがフル出勤となり、問題なくプログラム運営を継続できています。また、スタッフが4月からスムーズに入ってくれたことにより、これまでプログラム運営の中核だった理事長が渉外や財源強化の活動に大きく時間を割けるようになりました。</p>
<p>申請書に記載した「目的」に対する「成果」や地域社会へのインパクト</p>	<p>2014年度の1年間で、若者と保護者の総計46名が相談に訪れ、うち8名がキドックスへ通所し2名が自分の道へ進んで行きました。保護犬は9頭トレーニングをし、6頭が譲渡されました。若者も保護犬もまだまだ数としては少ないですが、今後も若者一人一人と犬一頭一頭とじっくり向き合いながら、確実に成果を出していけるプログラムにするために改良していきます。</p>
<p>事業実施後の展望や新たに見えてきた地域課題</p>	<p>茨城県南地域に住んでいる引きこもり状態にある若者が、少し外に出てみようかなと思った時に、敷居が低く社会参加できる場所としてキドックスは機能していると思います。しかし、一度訪れてもなかなか外に出れなくなってしまった若者、また、社会参加の過程の中で失敗経験などから再度</p>

	<p>挫折してしまった若者、など私達のプログラムもまだまだ改善が必要です。また、未だにどこの支援機関にも行けずに孤独や葛藤と戦っている若者も、たくさんいます。若者の声にもっと寄り添い、若者たちにとっての伴走者でいられるように、プログラムの種類もコンテンツも日々改良を重ねています。</p>
<p>助成金の原資を寄付された市民へ一言</p>	<p>皆様の大変貴重なご寄付をいただきまして本当にありがとうございました。茨城県内の不登校や引きこもり状態にあり自立に悩んでいる若者たち、そして飼い主に捨てられてしまった犬たち、双方の社会への再出発を実現していくことが市民の皆様が住み良い社会へと繋がっていると考えています。今回いただいた助成金のおかげで、この活動継続のための人材体制を整えることができました。心より厚くお礼申し上げます。</p>

支出報告書

年月	科目	摘要	金額
2014/10/9	旅費交通費	上山9月分交通費	26,820
2014/9/30	旅費交通費	上山8月分交通費	16,046
2014/9/30	旅費交通費	村本8月分交通費	17,520
2014/8/31	旅費交通費	村本7月分交通費	24,640
2014/8/31	旅費交通費	上山7月分交通費	18,093
		合計	103,119



事業名	子育て応援ワークショップ・カフェ事業
団体名	子育てカフェポムポム
実施内容	<p>主に家庭教育学級参加者、あるいは一般参加者を対象とし、講座主催者のニーズに合わせて、下記の6つのプログラムを実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「虐待防止プログラム」 2. 「子どもの成長を見守るプログラム」 3. 「ライフプランニング」 4. 「我が子をデートDV から守る」 (特別講座) <p>10/17 「郡山調査」 *助成金にて実施 12/18 「郡山ワークショップ」 *助成金にて実施</p> <p>2015年 1/24 「P 連女性ネットワーク講座」 4/15 「講演会並びに報告会」 *助成金にて実施</p>
事業を進めるにあたって課題となった点と、その対応	<p>助成対象の「郡山プロジェクト」において、まず2014年度は調査と準備期間として次年度実施の予定でいたが、思いがけず、プチマンさんの強力な理解と協力を得ることができ、年度内に講座実施が可能となり計画を進めたが、年度内実施には資金が足りないことがわかった。しかし事情を説明し追加支援をいただくことができたので実施することができた。</p>
申請書に記載した「目標」に対する実施「結果」	<p>これまで実施してきたつくば市内での活動は予定通り実施でき、参加者・依頼者の評価も得られた。また、2014年度特別企画の郡山ワークショップも実施することができ、P 連からの要請で予定していなかった女性ネットワークでの講座も実施できた。講座数的には数値目標を大きくクリアした。内容的にも評価いただき、100%頑張ったと言える。</p>
申請書に記載した「目的」に対する「成果」や地域社会へのインパクト	<p>ワークショップの参加者には、まずはふだんのストレスの高い生活から離れてリラックスした時間をすごしていただくことを目的としているので、講座実施中の様子やアンケートの内容から達成できているものと思われる。また、もう一つの目的が予防的効果を期待しているので、そのあたりの地域等へのインパクトとしてはまだはっきりとはみえてきていない。</p>
事業実施後の展望や新たに見えてきた地域課題	<p>つくば市の主に若い母親に対して実施している講座では、これまで以上に母親が抱え込んでいる子育ての課題や情報過多による出口のない完璧主義的な子育ての姿勢に危ういものを感じた。</p> <p>郡山において放射線の低線量汚染が自由に子供を外で遊ばす事ができないということに代表されるストレスが母親にかかっているのが気になった。</p>
助成金の原資を寄付された市民へ一言	<p>助成金をいただいたおかげでつくば市の外で講座を実施することができこれまで漠然としたイメージしかなかった郡山市の子育て支援状況をこの目でみて、またワークショップを実施することで郡山市の支援団体ともネットワークを形成することができました。ありがとうございました。</p>

子育てカフェポムポム収支報告書

平成26年4月1日～平成27年4月15日

収入の部

項目	金額	備考
助成金	200,000	いばらき未来基金
合計		

支出の部

項目	金額	備考
研修費	5,000	スーパーバイザー謝礼
活動費	124,003	ボランティア料、講師謝礼、サポーター謝礼、保険料、会場費、講座活動費、講座消耗品等
渉外費	20,145	視察先お礼等
交通通信費	42,205	交通費、通信費等
会議費	2,400	飲料費等
消耗品費	6,042	インク代、紙代等
合計	199,795	

差引残額	205
------	-----

上記の通り報告します

平成27年4月15日

代表 落合 美智子
 会計 幅 昌子



常陽新聞(2015年4月16日付)



* 栄養たっぷり美味しいごはん
* (安心手作りプロの味!)



* 郡山ワークショップ

日程：平成26年12月18日
時間：午前10時～12時
場所：がくと館 郡山市公共施設

子育て支援センター ぐくぐく 郡山
ママやパパたちのための
ほっとタイムワークショップ

日程 平成26年12月18日(木) 10時～12時
会場 子育て支援センター ぐくぐく
郡山市南一丁目1番1号
対象者 生後6ヶ月～3歳未満の乳幼児の保護者
託児料等 (無料)
定員 12名(12歳以下は定員4名)
参加費 300円(紙類4枚×6枚印刷)
申込先 アイキョップ(配布中)
申込先 NPO法人子育て支援センターぐくぐく
〒970-0241-024
TEL 12月18日(金)

* プチママンの協力を得て会場の予約、申し込み先の受付とりまとめなどをしていただいた。
* 当日の保育等についてもお願いしました。
* その他、JA茨城中央より星今、茨城のお茶にご寄付をいただく

※申し込みが終了してからのキャンセルはできません。キャンセル料は、申し込みから1週間前までは参加費の半額、1週間前までは参加費の全額、当日キャンセルの場合は申し込み費のみです。

主催 子育て支援センター ぐくぐく
協賛 子育て支援センター ぐくぐく
協力 NPO法人子育て支援センターぐくぐく

氏名	連絡先	住所
お名前		
お電話番号	おメールアドレス	お住所

* 郡山市ワークショップ
12/18(木) がくと館 到着



* 子育てで心配なことって何ですか？



* クリスマスシーズンにちなんでの紅茶です。



* お子さんはどんな遊びが一番好きですか？



茨城のお茶と干し芋なども紹介
(つくば紹介で修了)



ニコニコ館訪問
(郡山市子育て支援センター)

郡山市こども課こども支援係



* 室内遊び場～
カラーボールで遊ぼう





* 親子用のシアター映画等上映
(ニコニコ館)



* 子どもにとって危険な場所を学べます。
(ニコニコ館)



* 子育て講演会と郡山報告

<p>事業名</p>	<p>ちゃんみよ TV で地域を一つの大きな家族に！ インターネット放送による草の根情報発信</p>
<p>団体名</p>	<p>NPO 法人 ちゃんみよ TV（申請時はチームちゃんみよ TV）</p>
<p>実施内容</p>	<p>地域を「大きな家族のようにきずなを高めていこう」という思いのもと、地元で根差した地道な情報発信を行い、地域に目を向けてもらおうという取り組みを行っている。これにより、地域の魅力再発見→共有→愛着形成につなげることが当事業の目的である。</p> <p>この目的を果たすための情報発信の手段として、インターネットを利用して平日毎日1時間の生放送を行っている。また、地域で家族のように暖かい関係を構築するためには、WEB だけにとどまらず、リアルな交流も必要と考えるため、人通りの多い駅前スタジオにおける公開生放送中に「おかえりなさい」の声掛け運動や、「うしくりーん作戦」と題した清掃活動(ゴミ拾い)なども展開している。</p> <p>その中で、今回の助成を活用した取り組みは「先進事例視察」として、神戸市のコミュニティラジオ「FMわいわい」を調査するものである。当団体では、日々の情報発信を手探り状態で試行錯誤しながら活動してきたところであるが、NPO 法人への移行にあたり、情報発信の先進事例を学び、今後の運営体制強化や番組品質向上の参考とすることを目的に実施した。</p>
<p>事業を進めるにあたって課題となった点と、その対応</p>	<p>当団体の活動を通じてより大きな社会的価値を提供して行くためにはさらなる知名度の向上、視聴者数の増が不可欠な状況にある。</p> <p>現在までの運営経験から、ファン(コアな視聴者や支援者)を増やすためには、チラシ配布やメディア掲載といったPR手法のみではなく、取材等を通じた直接的なふれあいが欠かせないことも認識しているが、日常の放送を継続することで手いっぱいとなってしまう。</p> <p>当団体は基本的にフルタイムの仕事を持つメンバーのボランティアによって支えられているため、外への取材や編集、ファン獲得のためのPR活動、ゲスト・市民参加等のコーディネートにかけられる時間が限られることが最も大きな課題。</p> <p>この解決に向け、協力者を増やすことも重要であるが、一方で、番組の品質向上や運営体制の強化を図るためには、ノウハウの蓄積も必要であることから、今回の助成金を活用し長期間の運営実績を持つ事例として「FMわいわい」を調査することとした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

<p>申請書に記載した 「目標」に対する実施 「結果」</p>	<p>助成金を活用し活動の充実(番組内容の向上, PR活動の強化, 市民参加の促進)を図ることで, 支援者・寄付者を増やし, 次年度以降の運営基盤を固めることを目標として設定。具体的には, 20年にわたる運営実績・ノウハウを持つ事例として「FMわいわい」を調査することとした。</p> <p>これに対する実施結果としては, 平成27年2月14日(土)~15日(日)にかけて理事長綾部と会員小杉の2名が「FMわいわい」を訪問し, 実際の放送現場の視察や, 先方のご厚意もあり長時間にわたるヒアリングを行うことができた。</p>
<p>申請書に記載した 「目的」に対する 「成果」や地域社会 へのインパクト</p>	<p>今回の調査のみで目標達成できるものではないが, 先進事例調査を通して, 地域メディアの役割について再確認することができた。</p> <p>資金的な運営実態をはじめ, 真に市民に必要とされるメディアとは何なのか, 地域住民との連携のポイント, 協力者を得るための工夫, 番組品質向上のための取り組み等についてヒアリングを行い, 大きな示唆を得ることができた。</p> <p>これらは全て, 当団体の活動を強化するためのヒントとなり, 着実な番組改編や体制強化を進めているところである。</p> <p>実際に視聴数も伸びつつあり, 昨年度(視察前)は600程度で落ち着いたものが, 目標としていた1,000を超える日も見られる状況となった。これにつれて, NHKなどマスメディアに取り上げられる機会が増え, 新たなスポンサーの獲得につながるなど, 好循環が生まれつつある。</p>
<p>事業実施後の展望や 新たに見えてきた 地域課題</p>	<p>教会内に併設されたスタジオの見学を通し, 情報発信の効果を高めるためには, 拠点施設が必要と強く感じられた。イメージとしては, 様々な情報が溢れる情報拠点であるとともに, 誰もが気軽に訪問できるような交流拠点となる情報交流センターのような施設である。</p> <p>この施設があれば, 必要な情報を取得できるだけでなく, 多様な来訪者がコミュニケーションを図る場として機能し, 市民やNPO等が情報を活用し, 地域活動を促進する拠点としての役割にも期待できる。</p> <p>現在, 牛久市の情報交流拠点は, 市役所や市の生涯学習センターが担っているが, 将来的には当団体としても拠点づくりを検討していきたいと思う。</p>
<p>助成金の原資を寄付 された市民へ一言</p>	<p>貴重な助成金を賜り心より感謝申し上げます。</p> <p>私たちの情報発信「ちゃんみよTV」を通じて, 一人でも多くの皆さまに地元を好きになっていただけるよう, 今後も視察調査で学んだことを活かして運営改善に努めてまいりたいと思います。</p> <p>おかげさまで現在も視聴数は伸び続けております。放送内容はいつでもどこでもご覧いただけますので, ぜひご視聴いただき, 着実な成長を感じていただければ嬉しいです。</p>

いばらき未来基金第1回テーマ助成事業 報告書

いばらき未来基金 会計報告

収入			支出		
助成金	¥100,000	いばらき未来基金	往路	¥22,000	羽田～神戸、2名
			復路	¥30,000	神戸～茨城、2名
			その他交通費	¥15,000	電車、2名
			ホテル代	¥45,460	ほてる I SAGO神戸、2名
			謝礼	¥20,000	FMYY
合計	¥100,000		合計	¥132,460	

<p>事業名</p>	<p>ホームスタート事業</p>
<p>団体名</p>	<p>kosodate はぐはぐ</p>
<p>実施内容</p>	<p>利用者からの依頼を受けて、6歳未満の子どもが一人でもいる家庭に訪問いたしました。</p> <p>申込みを迷われている方に説明訪問を行いました。実際に申し込まれてから、以下のプロセスで進行します。</p> <p>①オーガナイザー（コーディネート役）の初回訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者宅を訪問し、お話ししながらアセスメント、ビジターのマッチング <p>②ビジター同行紹介訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーガナイザーが同伴して、訪問先の場所と利用者さんの確認 <p>③～⑥ビジター単独で定期訪問（週一回 2時間×4）</p> <p>⑦オーガナイザーモニタリング訪問</p> <p>この時点で、終了できない事情がある時は、③～⑦をもう1クール行いました。</p> <p>6月末現在、訪問件数 24 件（訪問中も含む）、現在申し込み済訪問未 2 件（2クール目が必要だった方は、1件）</p> <p>当初計画していた、10件を上回る訪問依頼があり、ニーズの高さを感じました。</p>
<p>事業を進めるにあたって課題となった点と、その対応</p>	<p>オーガナイザーの仕事の量の多さ、高い質を求められると実感しました。家庭でいえば母の役割で、利用者さんだけでなく、ビジターさんや関連の方に目配り気配りが必要です。現在会に財源がなく、他に仕事を持っているので時給 800 円ですが、できれば専業のオーガナイザーで時給 1000 円が確保できると、より安全安心な運営ができると思います。</p> <p>本来、この件数ならばもう一人オーガナイザーを置くことが望ましいのですが、金銭的にも人的にも増やせない状況です。</p> <p>ビジターは、昨年 2 回の養成講座で 13 名ですが、事情で活動できてない方やそれぞれ制約がありマッチングが難しい状況です。こちらに関しては今年度も養成講座を開催し、仲間を増やす予定です。</p>
<p>申請書に記載した「目標」に対する実施「結果」</p>	<p>ホームスタートの支援方法である、「傾聴」と「協働」「情報提供」「つなぐ」という事の効果を実感しました。単なる援助ではなく、それぞれの利用者が自分の力で解決する為のサポートを行い、必要とされることで支援する側も相互にエンパワーメントされるという結果が得られています。</p> <p>まだ、ホームスタート自体の認知度が低いので、利用者・支援者の掘り起しにより、活動が広がる事が期待されます。</p>
<p>申請書に記載した「目的」に対する「成果」や地域社会</p>	<p>27 年度、那珂市で新しく活動するグループができている他、興味がある、自分たちの地域でも活動したいというお問い合わせや見学者がありました。また、研究対象として捉えている学生さんが聞き取り調査に見えまし</p>

へのインパクト

た。他団体からの講演の依頼などもみられており、関心の広がりを少しずつ感じています。ここから、支援の当事者になる方が少しでも増えるように引き続き、丁寧な活動を続けて行きたいと思います。

事業実施後の展望や
新たに見えてきた
地域課題

H27年6月に特定営利活動法人になりました。この団体と活動をより円滑に運営していく事が重要だと考えています。そのためには、金銭的と人的な充足が最重要課題です。「良い活動ですね」とのお声はいただきますが、「他人事」の域を出ないのが現状です。「やさしさ」の連鎖が上手くつながるような工夫と根気が必要だと感じています。より広く知っていただくために、説明会を商業施設で行ったり、他団体とコラボするなどを考えています。

助成金の原資を寄付
された市民へ一言

みなさまのご支援により、様々な理由で育児に大変さを感じていたママが救われました。本当にありがとうございました。より多くの方に利用していただけるように、より一層努力していきたいと思っています。今後ともサポートをよろしくお願いいたします。



「いばらき未来基金」支出報告書

内容	金額(円)	備考
支払手数料	432	
手数料	432	
諸会費	20,000	
HSJ^	20,000	
人件費	114,360	
HS・オーガナイザー人件費(10月)	12,400	15.5時間
HS・オーガナイザー人件費(11月)	28,400	35.5時間
HS・オーガナイザー人件費(12月)	13,000	16.3時間
HS・オーガナイザー人件費(1月)	5,360	6.7時間
HS・オーガナイザー人件費(2月)	7,600	9.6時間
HS・オーガナイザー人件費(3月)	800	1時間
HS・オーガナイザー人件費(4~8月)	38,000	47.5時間
HS・オーガナイザー人件費(9月)	8,800	11時間
保険料	7,640	
ボランティア保険	7,640	13人分
旅費交通費	79,500	
HS・HV交通費	17,500	35回分
HS・HV交通費(11月)	12,500	25回分
HS・HV交通費(12月)	9,000	18回分
HS・HV交通費(1月)	3,000	6回分
HS・HV交通費(3月)	6,000	12回分
HS・オーガナイザー交通費(10月)	5,500	11回分
HS・オーガナイザー交通費(11月)	5,500	11回分
HS・オーガナイザー交通費(12月)	3,500	7回分
HS・オーガナイザー交通費(1月)	2,000	4回分
HS・オーガナイザー交通費(2月)	2,500	5回分
HS・オーガナイザー交通費(3月)	500	1回分
HS・オーガナイザー交通費(4~8月)	9,000	18回分
HS・オーガナイザー交通費(9月)	3,000	6回分
合計	221,932	